

デンマークのフォルケホイスコーレについての一考察（1）

渡辺 律子*

A Study of Folkehøjskole (international school) in Denmark (1)

Ritsuko WATANABE

要旨 2023年8月に以前から興味があったデンマークのフォルケホイスコーレの寄宿舎に滞在し、生徒と日常生活を共にして授業にも参加した。幸福度が高いデンマークのフォルケホイスコーレという教育制度を調べ、そこから幸福度の低い日本の青年の思考、価値観、行動変容のきっかけになりうる要因について検討を行った。その結果、フォルケホイスコーレでは授業、日常生活場面において常に対話を心がけ、その意見（個人）を認めることを大切にしていること、デンマークの教育制度においては、自身の人生について向き合い、考える時間があることがわかった。今後はデンマークの若者との対話から思考、価値観のヒアリングにより検討を深めたいと考えている。

キーワード：フォルケホイスコーレ デンマークの教育 オレロップ体育アカデミー エフタスコーレ

はじめに

デンマークでは医療費、出産費、介護費用は無料であり、高齢者には年金と住宅（住宅手当）が保証されているなど手厚い福祉制度がある。教育費については公立の幼稚園から大学院まで無料である。このような社会背景もあり、デンマーク国民の幸福度は世界で常に上位であり、国連の2023年度世界幸福度ランキングは2位であった¹⁾。一方、日本は同ランキングで47位であった。筆者は、2023年8月7日から11日までデンマークを訪れる機会があったため、フォルケホイスコーレの寄宿舎に滞在して生徒と日常生活を共にし、幾つかの授業に参加させて頂いた。この体験から、幸福度が高いデンマークのフォルケホイスコーレという教育制度は、現在の日本の青年が自身の思考、価値観及び行動の変容についてのきっかけになる要因があるのではないかと考えてフォルケ

ホイスコーレについて調べたので報告をする。1章ではデンマークの教育制度について述べ、2章ではフォルケホイスコーレについての概略を述べ、3章では筆者が体験したフォルケホイスコーレについて報告し、4章ではまとめ及び今後の研究の展望を述べる。

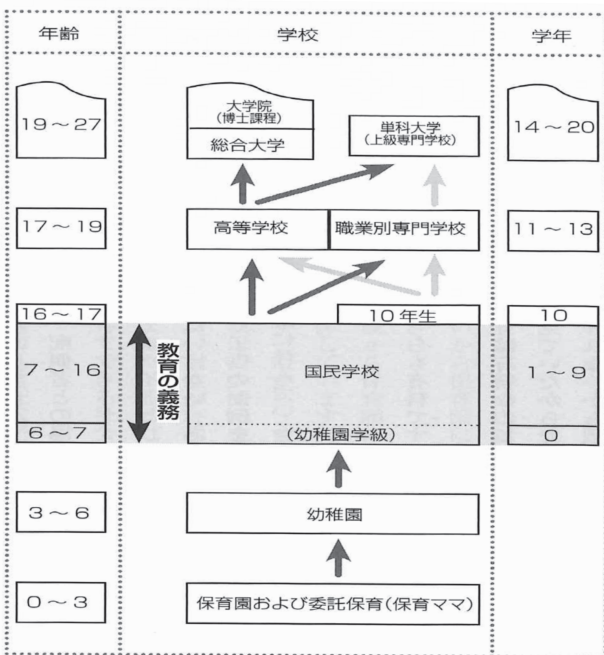
1. デンマークの教育制度

デンマークでは公立学校における経費は国と自治体が全額を負担するため学費は大学院まで無料である¹⁴⁾。義務教育課程は国民学校（フォルケスコーレ）で行われ、就学前クラスの0年生（5～6歳）から9年生までの10年間である⁶⁾。日本でいうと幼稚園年長クラスから中学校3年生までに相当する。日本では近年、小一プロブレム（文末註）が問題となっており、文科省からも幼小連携の取り組みが提言されているが、デンマークにおける0年生の義務教育課程のカリキュラムは問題解決の参考になるかもしれない。9年生を修了す

* わたなべ りつこ 文教大学教育学部学校教育課程体育専修

る時に卒業試験があり、中等教育機関である高等学校（ギムナジウム）または職業別専門学校（商業/技術ギムナジウム等）に進むことになる。しかし、学力等に不安があると判断されたり、自身でそれを感じたり、もしくは本人の意思で、10年生に在籍することも可能である。卒業生の約50%が10年生を選択しているという統計もある^{6) 16)}。3年間の中等教育または職業別専門学校後は就職したり大学に進学したりするが、デンマークの場合は就職、アルバイト、ボランティア活動等の社会体験を積んでから進学することも多く、この体験活動の選択肢の一つとしてフォルケホイスコーレに入学することもある⁵⁾。

表1 デンマークの教育制度



資料：2010 ©Dansk-Japansk Folkehøjskole allright reserved.

千葉忠夫 (2011) 「格差と貧困のないデンマーク 世界一幸せな国の人づくり」⁸⁾、PHP新書、p75より引用

2. フォルケホイスコーレについて

(1) フォルケホイスコーレの歴史と概略

フォルケホイスコーレの歴史については、多くの書籍、論文において語られているので^{1) 3) 4)}本稿では概略を述べる。デンマーク人でN. F. S.グランドヴィ (1783-1872) の名前を知らない人は

いないと言われる。哲学者であり教育者でもあるグランドヴィは、「生きた言葉による生のための学校^{4) 13)}」「すべての人に教育を」³⁾という考えのもと、1844年に主に学校に通えない農家に育った若者などを対象にフォルケホイスコーレを創設した。グランドヴィは成人教育の父とも呼ばれ、「生きた言葉と対話」³⁾を最も重視したとされている。この考え方は現在も受け継がれており、デンマークの教育は知識の「記憶」ではなく、「相互理解のための対話」に重点が置かれている^{10) 13)}。グランドヴィと共にデンマークのフォルケホイスコーレの普及に寄与した人物がクリステン・コル^{1) 3)} (1816-1870) であることを付記する。コルの功績については清水満 (2007) 「生のための学校」⁴⁾を一読願いたい。

(2) フォルケホイスコーレとは

フォルケホイスコーレは、デンマークが発祥の成人教育機関であり、デンマークには70校、フィンランドには約90校、スウェーデンには151校、ノルウェーには78校あり¹⁷⁾、北欧を中心に存在する。17.5歳以上であれば入学することが可能であり、年齢や国籍を問わず誰でもが学ぶことができる。フォルケホイスコーレの制度として、1) 入学試験を含む試験は行わない、2) 成績評価は行わない、3) 原則全寮制、4) 校長や数名の教員は学校敷地の中に居住、5) 卒業時に資格を与えない、という事があげられる。

次に、デンマークのフォルケホイスコーレについて、留学関連サイト^{12) 13) 16) 17)}の情報を基にまとめた。学校の定員数は30人から240人程度であり、定員数に幅があることがわかる。また、各学校で学べる分野には特徴があり、文学/歴史系、自然科学系、芸術系、スポーツ系、演劇系、工芸系・デザイン系、IT関連、環境関連、有機農業、政治学、キリスト教やスピリチュアルに関連したことを深く学べる学校など多岐にわたっていることがわかる。また、ユース向け、シニア向けという学校の選択方法も用意されている。在籍期間は

学校によって設定が異なるが、3か月、4か月、5か月、6か月、最長で10か月の期間を選択できるように設定されている。

特徴的なフォルケホイスコーレをいくつか紹介する。

【デザインを学ぶ学校】

スカンディナヴィア・デザインフォルケホイスコーレ

定員数：70名

科目内容：ファッション&テキスタイルデザイン、建築&プロダクトデザイン、グラフィックデザイン、デザイン理論、デザイン史、写真、PC、陶芸、油絵、水彩画他

【演劇・映画を学ぶための学校】

ヨーロッパ・フィルムカレッジ

定員数：115名

科目内容：映画制作（8か月）選択科目として、ドキュメンタリー制作、フィクション制作、音響効果、マルチメディア、脚本、TV制作などの基礎知識が得られるようカリキュラム

【世界の政治・文化、言語を学ぶための学校】

インターナショナル・ピープルズ・カレッジ

定員数：90名

科目内容：世界の政治・文化、デンマーク語、英語、英会話、デンマーク社会、自己啓発他

【手芸家につながるスキルが学べる学校】

スカルスデザイン&手工芸学校

定員数：90名

科目内容：手芸全般、服飾、織物、刺繍。選択科目として、製本、カリグラフィ、ドレスメーキング、服飾スケッチ、手編み、機械編み、フォトショップ、パッチワーク他

【障害者と健常者がともに学べる学校】

エグモントホイスコーレ

定員数：150名

科目内容：野外活動、社会学、メディア、芸術、国際、音楽、スポーツ、テキスタイル、グローバル（英語）。選択科目として、ガラス細工、哲学、英語、デンマーク語（外国人のため）他

このフォルケホイスコーレは障害を持った人も

健常者も共に学べる学校で、運営体制がユニークなので補足説明をする。1956年に身体障害者のみを受け入れる学校としてデンマークの全国障害者協会によって創設された。ノーマライゼーションの考え方の普及とともに、1970年に障害者と健常者を分けない統合教育を目指し、すべての人を学生として受け入れるようになった。学校は障害者も健常者も暮らせるよう設備もケア介護も整備されて共生社会が実現している。介護が必要な生徒には、健常者の生徒がヘルパーとしてつくが、ボランティアでなく、障害者が自分の介護に適した学生を雇うというシステムをとっている。障害者用宿舎、広い庭、プール、体育館、図書館等がある。生徒達の障害者観を確実に変える、最先端の福祉思想が実現している学校である（同校ホームページより、一部抜粋）。

（3）エフタスコーレについて

先述（1. デンマークの教育制度）した通り、デンマークの国民学校は9年生で卒業試験が行われるが、学力等に不安がある場合や本人の意思で10年生を選択することができる。この10年生をエフタスコーレ^{3) 4) 6) 7) 15)}で過ごすことも認められている。エフタスコーレは、フォルケホイスコーレの年少者向けの学校という見方もできることから、ここで概略をする。

エフタスコーレは、14歳から18歳まで入学することができる。全寮制であり、義務教育も兼ねているため教科の学習を行いながら、生活面での学びも得ることができる。現在260校が存在し、1万7,000人の生徒が在籍している¹⁵⁾。

エフタスコーレは、クリステン・コルら¹⁾によって1851年に創設された。同年代の生徒との寄宿舎生活を通して、「自分はどんな人生を送りたいのか」と自身に問いかけて学ぶ場でもあり、フォルケホイスコーレと同様にグルントヴィの思想を汲んでいる学校であることがわかる。エフタスコーレも音楽、スポーツ、演劇やアートなど特定の分野に力を入れている学校でもあり、それに

関連したアクティビティや行事が多く用意されている。生徒は自分の興味や関心がある分野のエフタスコーレを選択するので、趣味の合う仲間を作りやすいという特長がある。日本では学校や勉強に興味を持っていない、友達づくりが上手くいかない、その他の理由で不登校の子どもが増えている。教科の指導法の改善、タブレットの導入によるわかりやすい授業展開や少人数制の実施、子どもが安心していられる居場所としての学級経営も大切だが、アニメやコンピューターなど自分の好きなことを追求し（学び）ながら、教科も学べる学校体制があれば不登校の子どもに限らず、すべての子どもがワクワクしながら学校に通えるのではないかと筆者は思った。エフタスコーレのように、思春期の子どもたちが、1年間かけて自身の人生について考えることができる時間を持つというのはとても貴重なことだと考える。

3. フォルケホイスコーレの授業

(1) オレロップ体育アカデミー視察

筆者は2023年8月7日から11日まで、デンマークのフン島にあるスポーツ系のフォルケホイスコーレであるオレロップ体育アカデミー^{2) 9) 10)}に滞在した。1920年に「オレロップ国民高等体操学校」として創設されたデンマークで最初の体操学校であり、創始者はデンマーク体操の父と呼ばれるニルス・ブックである。建物は国宝級のフォルケホイスコーレであるとも言われている。スベンボー郊外にあり、市街地からのバスを降りると緑豊かな大自然の中に近代的なスタイリッシュなガラス張りの建物と歴史的な建物が立ち並び、敷地内には通常の授業を受ける教室の他、体育館アリーナ、スプリングルーム、ダンスルーム、トレーニングルーム、ヨガルーム、屋内と屋外のプール、芝生のサッカーグラウンドがある。一方、創立当時の教場や寄宿舎の廊下の壁には当時描かれた体操やダンスを行っている若者の姿が残っている。定員は240名であり、フォルケホイスコーレとしては大規模な施設である。オレロップ

体育アカデミーも他のフォルケホイスコーレと同様に、1) 入学試験を含む試験は行わない、2) 成績評価は行わない、3) 原則全寮制、4) 校長や数名の教員は学校敷地の中に居住、5) 卒業時に資格を与えない、17.5歳以上であれば国籍を問わず誰でも入学することが出来る。オレロップ体育アカデミーの設立ポリシーに「1人のオリンピック選手より、99人の健康な人を作ろう」があり、グランドヴィの思想のもとに作られた学校であることを窺わせる^{2) 9) 18)}。

学期の初めにライン（専攻コース）を決めて、原則そのラインを中心に授業に参加する。パワーリフティング、リズム&ダンス、ヘルス&フィットネス等があり、近年は警察官になるための体力をつけるためのラインもつくられた。カリキュラムはリズム体操、タンブリング、各種スポーツ他、全体の必修科目としてソング&ストーリー他、選択科目として、コラージュ、楽器演奏他がある。週末にはアクティビティでキャンプに出掛けたりする（ラインや科目は、年度、チームによって変更がある）。授業においては常にワークショップやディスカッションが行われていた。筆者が訪問したのは新年度（8月から新年度が始まる）の第一週目であり、参加した授業はアイスブレイクを兼ねたコミュニケーションづくりが多かった。それらは、授業に関わるユニークなものであった（授業の様子を写真に取めたのだが、個人情報関係で掲載できないのが残念である）。世界中から集まった若者がこれから数か月間、共同生活を行うための貴重な1時間目の授業であり、授業担当者は細心の注意を払って創意工夫と目配りをしており、学ぶ事が多い授業であった。今回は参加できなかったが、アクティビティで TENT を張って寝たり、生徒主催のパーティーがあったり、夜は沢山のソファが置いてある大きなりビングで友人たちと語り合う時間があったりする。ホールの入り口にはリフレッシュメントのケーキ（デンマークの伝統のお菓子のドリームケーキなど）やお茶が用意されている（2017年に

訪問の時に体験した)。前回訪問した時に、この語らいの時間に皆から離れて1人で座っている日本人生徒を見かけた。デンマーク人の生徒に「誘ってあげたら?」と問うと「あの子は一人でいたいよ。いつもよ」とほほ笑みながら答えてくれた。青年期におけるこのような対話(語り合う)時間は、互いを成長させる貴重な時間であることが推測される。

(2) フォルケホイスコーレの授業に参加して

最後に、筆者がオレロップ体育アカデミーの授業に参加して、印象に残った活動、授業運営方法について述べる。

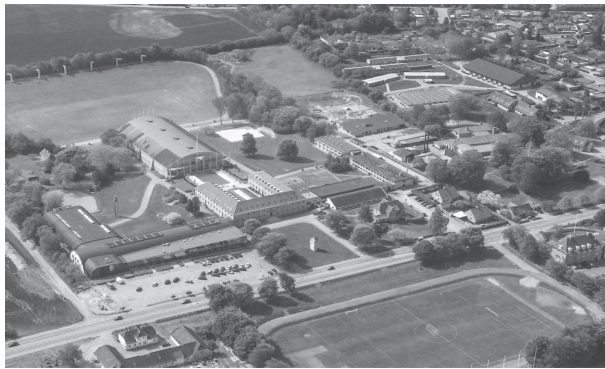


写真1 オレロップ体育アカデミー

07:30	Cleaning	Cleaning	Breakfast	Cleaning	Cleaning
07:30	Morning assembly	Morning assembly	Morning assembly	Morning assembly	Morning assembly
08:30	Cleaning	Intro to school facilities	Common ground	Focus subject	Focus subject
10:00	Fortællerelev	Refreshment	Refreshment	Tur ud af huset	Tur ud af huset
10:30	All continuing students	Kommunikation & kalender	Linefag	'Art of sharing'	Common Ground
12:00	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch
12:30	Break + Shop open	Break + Shop open	Break + Shop open	Break + Shop open	Break + Shop open
13:00	13.00 Arkitekt	Væden & Mig	Familjegruppemøde	Sing og Fortælling	Tur ud af huset
14:30	Alle Students	Refreshment	Refreshment	Refreshment	Refreshment
15:00	Velkomst og elevaktiviteter	Common ground	Elvendemødt	Common Ground	Tur ud af huset
16:30	Break	Break	Break	Break	Break
18:00	Aften	Aftenmad/Diner	Aftenmad/Diner	Aktivitet i Opholdstuen	Bar/rolig

写真2 オレロップ体育アカデミー時間割
(06.08.23 ~ 11.08.23)

1) グループワーク

デンマークの教育を語るときに欠かせないのがグループワークである。ディスカッション、プロジェクトワークなど「考えて」「話し合って」「実際に動いて」「共に学ぶ」といった授業形態を通

して、コミュニケーションをとる必要性、難しさ、大切さが学べることを授業に参加して改めて実感した。筆者はインターナショナルクラスの授業に参加したが、活動する生徒たちを見ていて、笑顔と話しかける(発言する)勇気があれば、言語の壁は乗り越えられると感じた。

授業担当者は、仲間づくりを意識してグループワークを多く取り入れているとの事であったが、よく観察すると、単なる仲間づくりではなくチームを構成する一人ひとりの能力やスキルを発揮することで達成できる課題を提示し、互いを認め自己肯定感及び信頼性を高めるように計画されていることがわかった。

2) インターナショナルクラスの存在

このフォルケホイスコーレでは英語能力の基準は特に設けてはいないので、デンマーク語、英語を母国語としない生徒のためのインターナショナルクラスがあり、日本人の生徒も数名入っていた。英語圏以外の生徒には安心感があると感じた。自己紹介を輪になって担任教員から順番に行ったが、“My pronounce is she or her”(「私の代名詞は女性です」)と言ったことに少し筆者は戸惑った。見た目で女性だとわかるし、中学校の英語授業の自己紹介で習った記憶もなかったからだ。後で質問をしたところ、「言いたくなくても構わない」と答えてくれた。筆者はよい体験をしたと思い、自身の自己紹介フレーズを上書きした。一方で、日本社会のLGBTQについての現状が頭をよぎった。グローバル社会に適應できる日本人を育てるためには、自己紹介において、ためらう事なくこのフレーズを述べ、そして受け入れられる教育が必要だと感じた。

4. まとめ及び今後の展望

今回、フォルケホイスコーレについて調べた結果、グルンドヴィがフォルケホイスコーレを創設した意志である「相互理解のための対話」が現代社会にも引き継がれており、デンマーク国民の気質やデンマークという国を作り上げていると感

じた。

また、フォルケホイスコーレで生徒と共に授業に参加し、寄宿生活を行ったことで、教員は講義、実技の授業を問わず、また、日常生活においても常に対話を心がけ、一人ひとりに意見を求め、その意見（又は個人）を認めることを大切にしていることがわかった。今後の展望として、2点挙げる。1つ目は、文献、先行研究においてフォルケホイスコーレは民主主義的思考を育てる場であり、知の欲求を満たす場である、という理念が語られていたが^{1) 3) 4)}、デンマークの青年との対話を通してそのことを確かめたいと考えている。2つ目は、フォルケホイスコーレの年少向け位置づけであるエフタスコーレについて、その実態について調べたいと考える。

これらの調査研究を行うことで、デンマークの教育制度から、日本の青年たちの思考及び価値観、行動変容を考えるきっかけとなるべく要因を模索したいと考える。

謝 辞

オレロップ体育アカデミー滞在中、また本稿を執筆するにあたり、現地日本人スタッフの藁谷智美さん、中村秀峰さんには通訳、授業でのフォロー、交渉等で大変お世話になりました。深く感謝いたします。また、家庭科の先生からデンマーク料理研究家に転身された加治泰子さんにも研究にあたり貴重なご意見を頂きましたことに感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) クリステン・コル（清水満訳）（2007）「コルの子どもたちの学校論」, 新評社。
- 2) 工藤亘ら（2017）「フォルケホイスコーレであるオレロップ体育アカデミーとデンマークの教育制度及び教員養成についての研究」, 玉川学園・玉川大学健康・スポーツ科学研究紀要, 18: 13-18.
- 3) 児玉珠美（2016）「デンマークの教育を支える

「声の文化」, 新評論, p107.

- 4) 清水満（2007）「生のための学校」, 新評論, 改訂新版.
- 5) 鈴木七美（2006）「デンマークの福祉における余暇の思想 —フォルケホイスコーレと生活指導教員養成大学の活動をとおして—」, 京都文教大学人間学研究, 7: 75-87.
- 6) 谷雅泰・青木真理編著（2017）「デンマークの教育, ひとなる書房」.
- 7) 谷雅泰・三浦浩喜・青木真理（2010）「デンマークの若者支援: —若者へのインタビュー その2・エフタスコーレとHTX—」, 福島大学地域創造, 21 (2): 61-79.
- 8) 千葉忠夫（2011）「格差と貧困のないデンマーク」, PHP出版, p75.
- 9) 早野曜子（2021）「デンマーク・オレロップ体育アカデミーと自由学園の交流（その1）—学校設立と交流の歴史」, 生活大学研究, 6: 118-128.
- 10) 矢野拓洋ら（2022）「フォルケホイスコーレのすすめ」, 花伝社.
- 11) 朝日新聞SDGs ACTION, “世界幸福度ランキング日本の幸福度2023年”, 2023.03.22, <https://www.asahi.com/sdgs/article/14866028>. (アクセス日: 2023-10-8)
- 12) 一般社団法人IFAS, “フォルケホイスコーレとは”, <https://www.ifas-japan.com/folke/>
- 13) SYNODOS, “デンマークのフォルケホイスコーレで学ぶために必要なものとは”, 2020-06-10, <https://synodos.jp/opinion/international/23570/> (アクセス日: 2023-10-8)
- 14) デンマーク大使館 デンマーク外務省, “福祉と教育”, <https://japan.um.dk/ja/info-about-denmark/denmark/welfare-and-education> (アクセス日: 2023-10-8)
- 15) 北欧研究所, “デンマークの保育・教育成度”, 2017-1改訂,

<http://www.japanordic.com/assets/wp-content/uploads/2017/02/1.pdf>

（アクセス日：2023-10-8）

- 16) 北欧留学情報センター（北欧留学ナビ）,

<http://www.folkehojskole.jp/pdf/osusume.pdf>

（アクセス日：2023-10-8）

- 17) 留学くらべる, “「フォルケホイスコーレ」
とは？留学費用が安く済むってホント？北欧発
祥の教育”, 2023.08.17,

<https://ryugaku.kuraveil.jp/articles/1369>

（アクセス日：2023-10-8）

- 18) オレロップ・フォルケホイスコーレ,

<https://ollerup.dk/en/about-ollerup/>

[註]

- * 小一プロブレムとは、幼稚園・保育所・認定こ
ども園の教育と小学校以降の教育には様々な
「違い」が存在し、小学校進学時にとまどう児
童や、適応が難しい児童がみられること。（文
部科学省，幼児期の教育と小学校教育の接続に
ついて資料より）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/070/gijigaiyou/__icsFiles/afieldfile/2010/06/11/1293215_3.pdf

（アクセス日：2023-10-8）

